「第１回検討市民委員会の意見」と「アンケート結果」

資料－２

第１回検討市民委員会の意見

都市計画マスタープラン

■10 年間の成果

・平成 13 年から現在までの約 10 年間の成果は何か？
（市）・土地区画整理事業により、都市計画道路の整備を実施した。
・まちづくり条例・景観計画の策定、高度地区・緑地保全地区の指定などを行った。
・具体的な成果は、別途、資料で整理している。

■位置づけ

・都市計画マスタープランの位置づけ、「即す」、「整合」について説明してほしい。
（市）・都市計画法において、「都市計画区域の整備、開発及び保全の方針」、「総合振興計画」は「即す」と位置づけられている。
・農業や緑地等に関する個別の関連計画は、「整合」をとることが望ましいとされている。

道　路

■安全な歩道の確保

・通学路は安全にしてほしい。歩車道の分離、せめて、柵だけでも設置してほしい。
・ベビーカー・車イスなどの歩道の整備やバリアフリー化をお願いしたい。
・市道１号線（新倉氷川神社～下新倉氷川神社）の整備が遅れている。新倉小学校周辺の歩道が整備されていない。
・和光高校に至るまでの道路が狭く、歩道も確保されていない。
・道路埋設物の改修工事で、舗装がでこぼこになるのは困る。

■道路拡幅

・鉄道北側の道路は未整備箇所が多い。

■道路の段階構成

・幹線的な道路で車を円滑に走行させ、通学路や住宅地での安全性は確保していくことが重要。

■道路整備の見通し

・長期的な見通しはどうなっているのか？
（市）・都市計画道路整備は、土地区画整理事業と一体で行っているが、県の単独事業で行う路線もある（一般国道２５４バイパス）。
・財政不足のため道路用地の確保が困難な事、地権者の同意が得らえない事から事業が進まないのが現状。

土地区画整理事業

■インフラ整備との関連

・土地区画整理区域外の道路は、整備が進んでいない。
・第二谷中地区の土地区画整理事業で大雨時、谷中川があふれている。事業中の対応が必要。

緑地・公園

■緑地の保全

・自然環境、緑地の保全・活用はどのようにしているか？
（市）・特別緑地保全地区１ヶ所、ふれあいの森（市民緑地）を６ヶ所整備した。市民と協働で管理している。

■公園整備

・公園を市の中心において、周辺に住宅地を配置するなど、身近に公園のあるまちづくりを進めてほしい。

■緑化の推進

・街路樹の整備が十分でない。

■湧水の保全

・湧水・緑地の一体的な整備をめざしていくべき。
・和光市の特長である湧水を、どうするのか、課題である。

農　地

■農地の保全

・農地が減っている。農地の保全をどうするか、課題である。
（市）・生産緑地の追加指定を行い農地の保全を進めている。
・農地を集約してはどうか?
（市）・農業基本構想における農地の利用集積等の方針と整合を図っていく。

アンケート結果

1　アンケート調査の概要

■アンケート調査の実施概要

調査目的	本アンケート調査は、地域の現状や今後のまちづくりについて市民意向・要望を把握し、「和光市都市計画マスタープラン」の中間的な見直しに役立てるために実施したものです。
配布・回収方法	郵送による配布・回収
実施期間	発送：平成 25 年 6 月 10 日（月） ～投函締め切り：6 月 24 日（月）
配布対象	２０歳以上の市民の中から無作為に抽出した２，０００人の方を対象に実施しました。
回収状況	８０６人（回収率４０．３％）　７月５日（金）現在

■アンケート調査の実施項目

同封資料	・アンケート調査の目的とご協力のお願い（記載に際しての留意事項）
調査項目	Ⅰ．回答者属性 Ⅱ．和光市全体の魅力や課題について Ⅲ．生活環境について Ⅳ．定住意識について Ⅴ．まちづくりについて Ⅵ．文化・教育・スポーツについて Ⅶ．和光市のまちづくりに関するアイデア・要望等

⇒単純集計結果については、第１回検討市民委員会（6 月 28 日）提出時の速報版と大きな変化はありません。

⇒今回は、自由意見（Ⅶ．和光市のまちづくりに関するアイデア・要望等）の結果とクロス集計（年齢別での傾向の把握）結果を整理しています。

2　単純集計結果のまとめ

●和光市のイメージや魅力について

- 市民にとって和光市のイメージは、**「東京に近いまち・緑豊かなまち」**です。
- 市の魅力は、**東京に近く通勤通学に便利でありながら自然環境に恵まれている所**と**住みやすい良好な住宅地**です。

●和光市をどんな都市にすべき？どんな分野に力を入れるべき？

- 高齢者・障害者・子ども等が安心して暮らせる安全な都市など、**誰もが安心して暮らせるまちづくり**が求められています。
- 医療分野や駅前の拠点性向上など、将来的に想定される**高齢化に向けた暮らしやすさの向上**が求められています。
- 市内の土地利用については、**魅力ある商業環境の形成**が求められています。

●地域の環境について

- **交通利便性の高さ**と**自然環境の良さ**の満足度が高く、不満の多い**買物・医療・道路環境整備**が和光市の課題です。騒音等の公害は改善傾向であるものの更なる対策が求められます。

●定住意識について

- ２０年以上の居住者（約４割）と５年未満の居住（約２割）が多く、既存住民と新規住民の**交流促進**や新たな**地域コミュニティの形成**が重要です。
- 今後も住み続けたい方が多いものの、**買い物が不便**、**広い住宅が市内にない**こと等により他の場所に移りたい方もいます。

●道路や緑、景観、環境配慮、防災等について

- 道路は、**狭隘道路の解消**や**安全な歩行者空間の確保**など、誰もが**安心して歩いて暮らせる都市空間の形成**が求められています。
- 緑のまちづくりは、**歩行者に優しい緑豊かな道路整備**や**防災と合わせた緑のまちづくり**が求められています。
- 景観形成については、斜面緑地や湧水など**貴重な自然景観が点在**しており、**都市景観との調和**が求められています。
- 環境に配慮したまちづくりは、**自動車に依存しなくても生活できる環境づくり**が求められています。
- 防災については、災害に強いまちづくりへの意識が高まっており、**備蓄倉庫整備、避難場所**などが求められています。

●自由時間（余暇時間）等について

- 余暇を**自宅で過ごす方が多く**、外出支援・社会参加につながる方向性を検討する必要があります。

●まちづくりへの参加について

- **まちづくりに対する市民意識の高まり**がみられます。さらなる活動機会の創出が求められます。

3　自由意見のまとめ

■道路・交通について	回答数
道路拡幅・歩道設置等により、安心して歩ける道路を作ってほしい	99
バスが利用しづらい、便数を増やしてほしい	36
交通安全施設を整備してほしい	35
自転車駐輪場・駐車場を整備、増やしてほしい	15
鉄道の利便性・安全性を高めてほしい	11

■和光市駅周辺について	回答数
和光市北口の基盤整備を進めてほしい	46
駅前の発展に力を入れてほしい	17
和光市駅北口はあまり開発してほしくない	3

■買物環境について	回答数
商業施設がない	33
大型商業施設がほしい	26
飲食店、カフェがほしい	12

■公園・緑地について	回答数
緑を増やし、それを維持・整備してほしい	35
子供が遊べる身近な公園がほしい	21
安心して遊べる川づくり・河川敷整備をしてほしい	8
大きな公園がほしい	5
災害時のための公園がほしい	1

■環境・景観について	回答数
良好な景観づくりが必要	10
騒音、排気ガス等を改善してほしい	8

■施設整備について	回答数
スポーツ施設や美術館、プールなどの公共施設を整備してほしい	38
病院や福祉施設を作ってほしい	18
図書館がほしい、本などを充実してほしい	17
児童生徒数に合った適切な学校配置が必要	11

■まちづくりへの参加について	回答数
市民の意見をまちづくりに反映してほしい	61
イベントやサークルなど交流の場を設けてほしい	12

■住みよいまちづくりについて	回答数
子育て・教育に力を入れてほしい	23
住み良い住宅地づくりが必要	21
多くの人が住みやすいまちづくりを期待する	17
安心・安全なまちにしてほしい	16
土地が少なく、高い	2

■その他	回答数
マナーの悪い人がいる	25
適切に税金を使ってほしい	21
ごみ回収日を増やしてほしい。ごみの散乱。リサイクル。	12

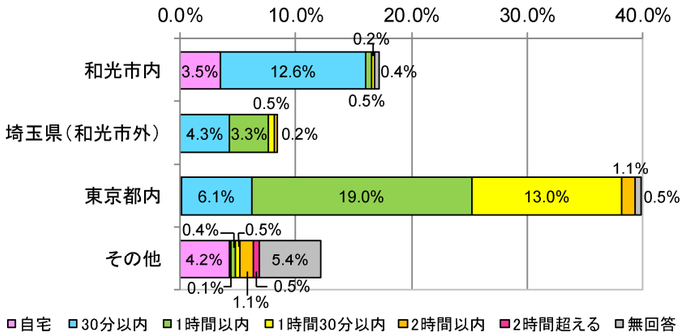
自由回答記入者数：３６２人（記入率４４．９％）

※回答は重複するため、合計が一致しない。

4　クロス集計結果

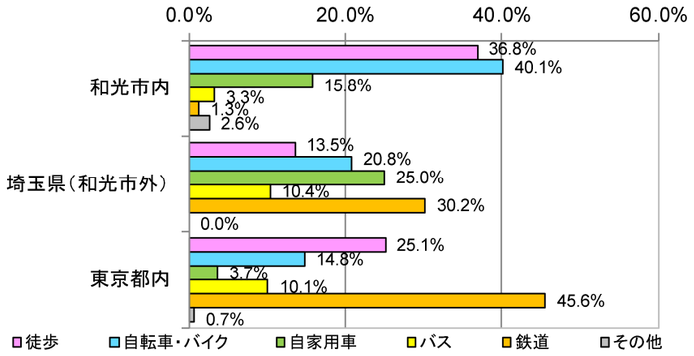
■通勤・通学の場所　×　通勤・通学の時間

東京都内に通勤・通学する方が全体で約４割いる中、半数以上の方が１時間以内で通うことができています。



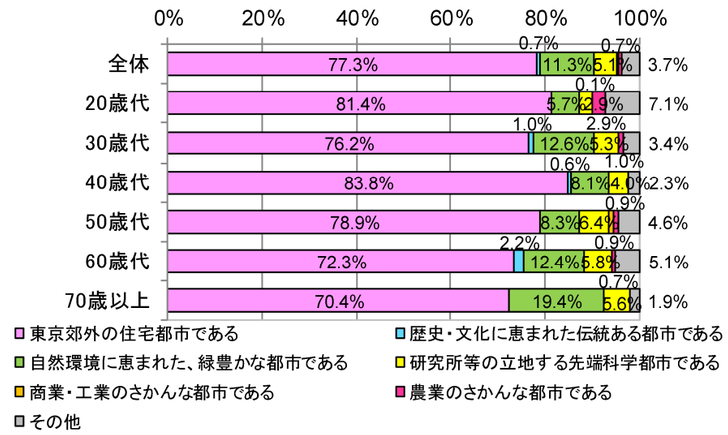
■通勤・通学の場所　×　通勤・通学の手段

和光市内通勤・通学の方は徒歩、又は自転車・バイクの利用率が高く、東京都内通勤・通学の方は鉄道の利用率が高いです。



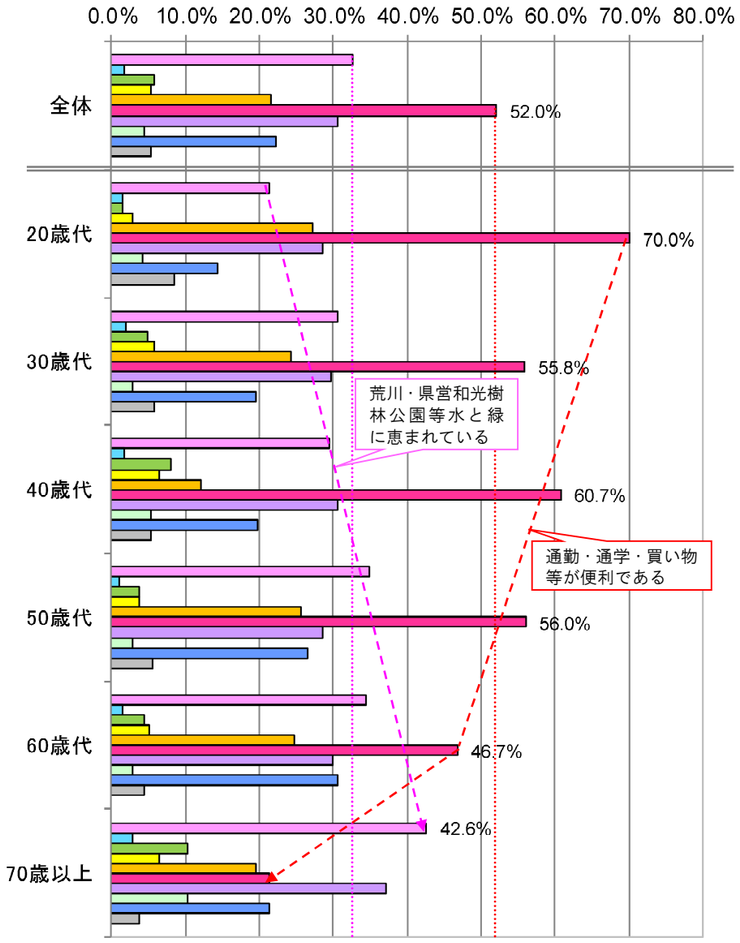
■年代　×　和光市のイメージ

各年代で「東京郊外の住宅都市」が高くなっています。７０代以上の方は、「自然環境に恵まれた緑豊かな都市」が高くなっています。



■年代　×　市の魅力

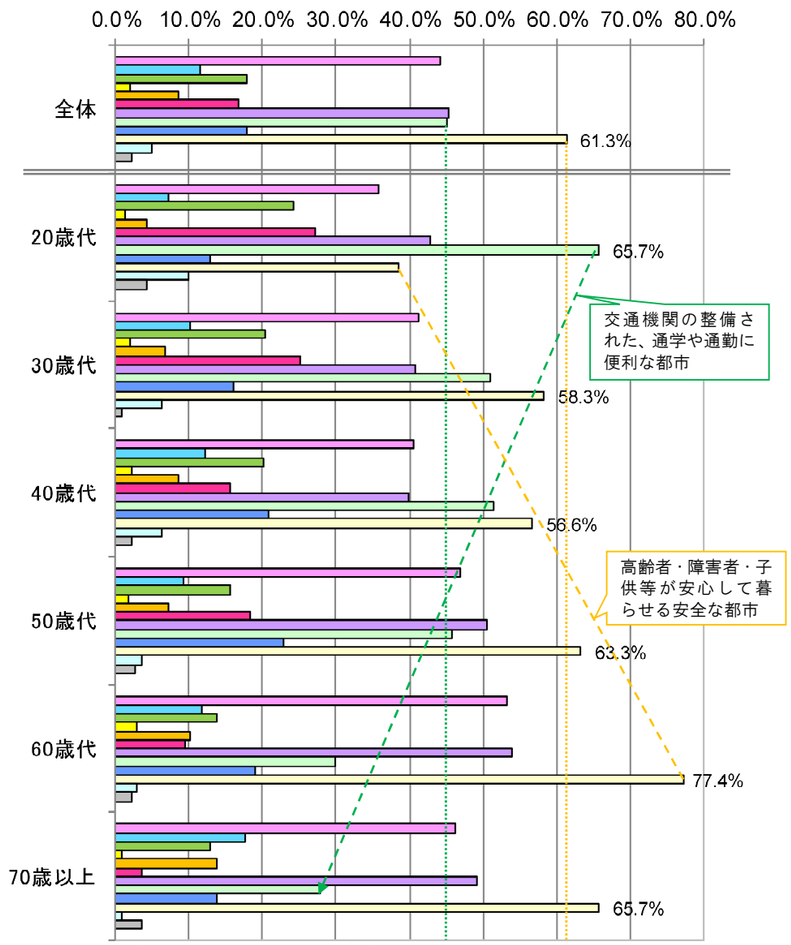
各年代で「通勤・通学・買い物等が便利である」が高くなっていますが、若い年代程この割合は高いことが分かります。また、逆に、「荒川・県営和光樹林公園等水と緑に恵まれている」は、年代が上がるごとに増加傾向にあります。



※各年代の回答の一位に割合を記載

■年代　×　どんな都市にすべきか

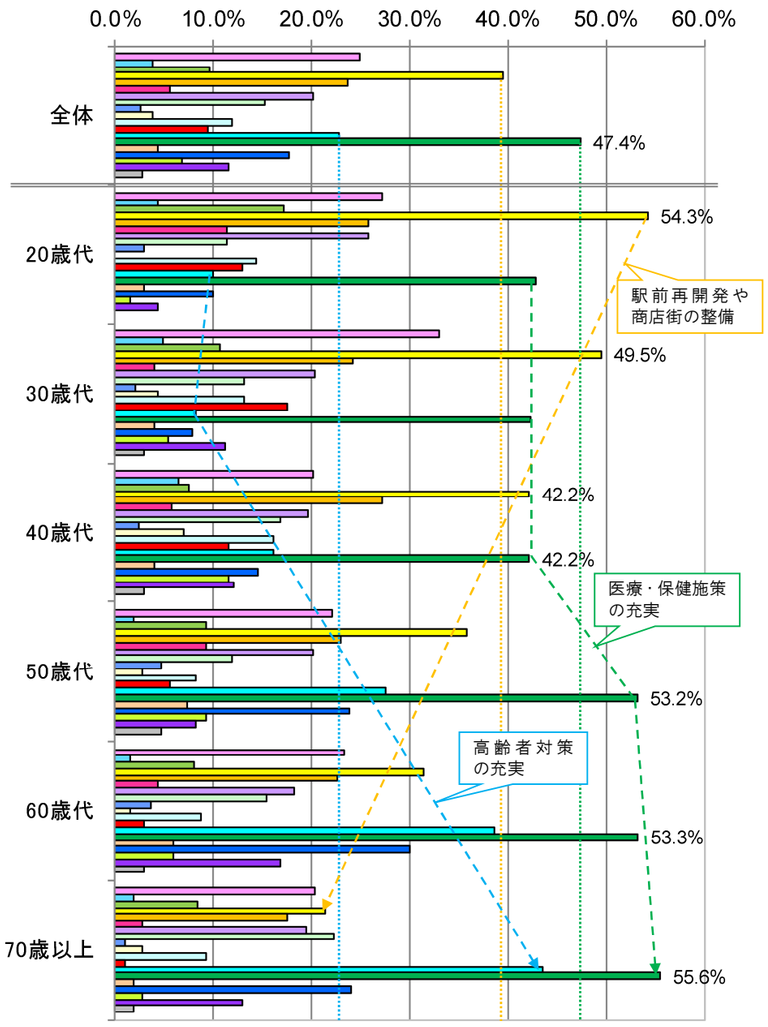
年代が上がるごとに「高齢者・障害者・子供等が安心して暮らせる安全な都市」が高くなり、６０代がピークで約８割の方が回答しています。また、「交通機関の整備された、通学や通勤に便利な都市」は２０代の方が約７割と一番高くなっていますが、年代が上がるごとに減少傾向にあります。



※各年代の回答の一位に割合を記載

■年代　×　力を入れるべき分野

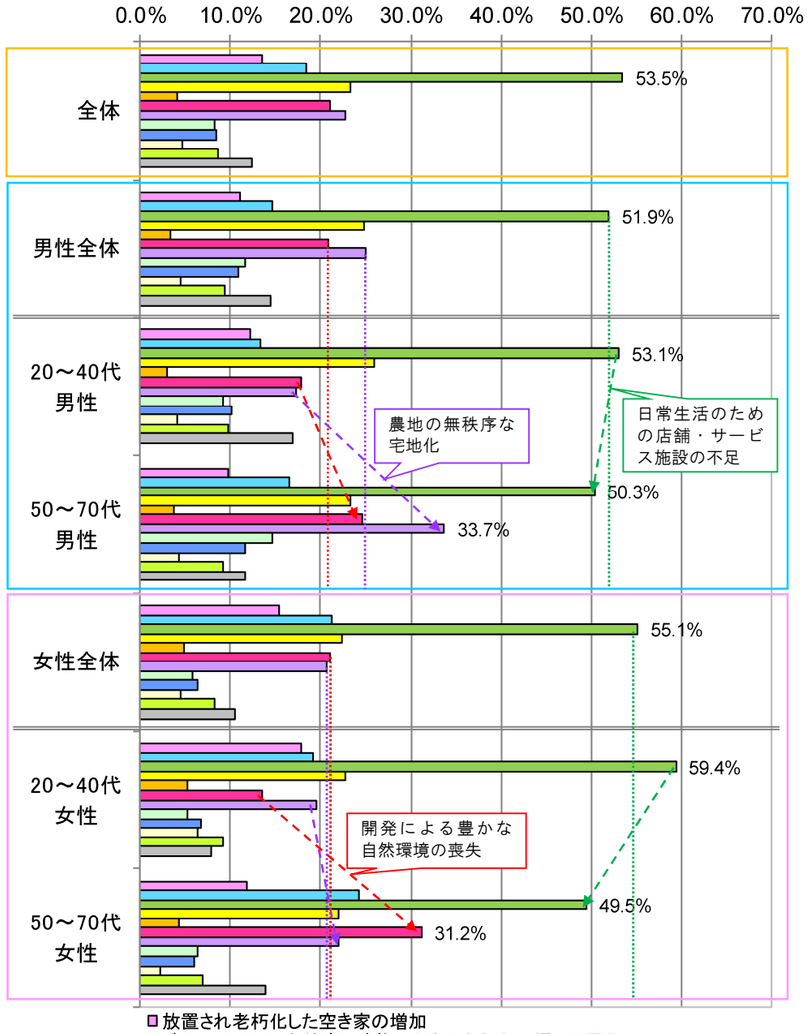
「医療・保健施策の充実」は、５０代以上で多くの方が回答しています。「高齢者対策の充実」も、年代が上がるごとに高くなっていることが分かります。「駅前再開発や商店街の整備」は、若い方ほど力を入れるべきと考えており、２０代では約５割でピークになっています。



※各年代の回答の一位に割合を記載

■年代　×　土地利用上の課題

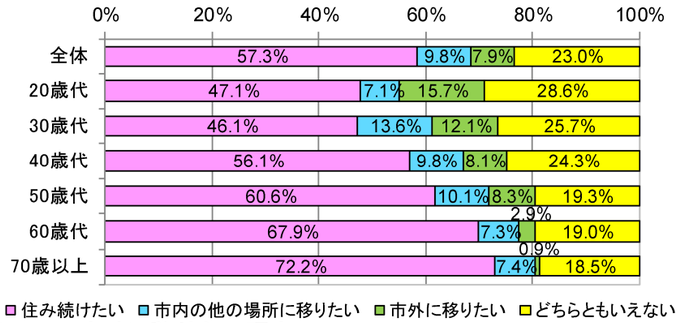
全体的に「日常生活のための店舗・サービス施設の不足」が非常に高く、中でも、２０～４０代女性の割合が約６割と、最も高くなっています。また、「農地の無秩序な宅地化」は５０～７０代男性、「開発による豊かな自然環境の喪失」は５０～７０代女性が最も高く、双方とも約３割となっています。



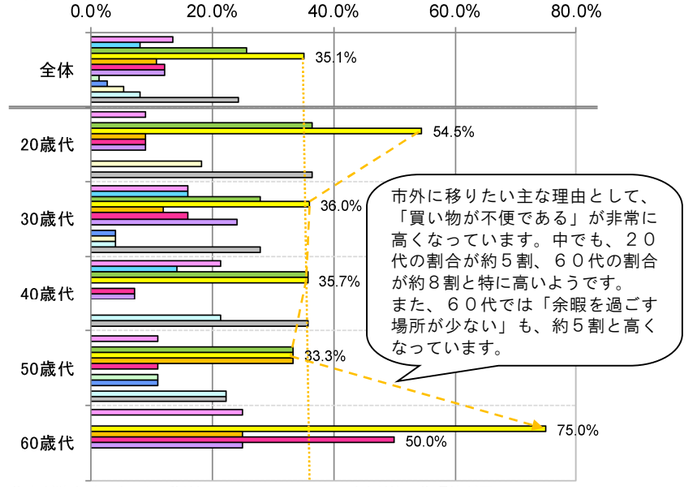
※各年代の回答の上位のものに割合を記載

■年代　×　住み続けたいか

各年代で「住み続けたい」が高くなっており、年代が上がるごとに増加傾向にあります。また、「市外に移りたい」は、２０代が最も多く、年代が上がるごとに減少していることが分かります。



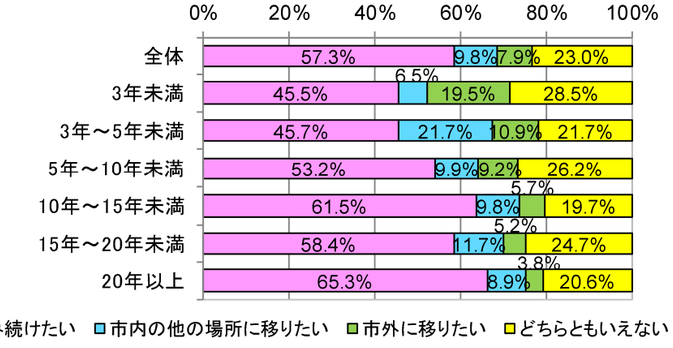
■年代　×　市外に移りたい理由



※７０歳代以上は回答者が少ないため省略

■居住年数　×　住み続けたいか

居住年数が長いほど、「住み続けたい」と考える方の割合は高くなっています。「市内に移りたい」と考える方は３～５年の居住者が多く、「市外に移りたい」と考える方の割合は居住年数が短いほど高くなっています。



5　クロス集計結果まとめ

■若年層（２０～４０歳代）の意見の特徴

◆和光市のイメージ・魅力について

・和光市のイメージとして、東京郊外の住宅都市であると考える方の割合が高いです。

・和光市の魅力としては、通勤・通学・買い物等が便利であると考える方の割合が高いです。

若年層が抱く市のイメージ・魅力　⇒　**『東京への通勤・通学・買い物が便利な住宅都市』**

◆和光市の将来像や課題について

・将来の和光市について、交通機関の整備された通学や通勤に便利な都市にしてほしい方が多いです。

・力を入れるべき分野では、駅前再開発や商店街の整備、医療・保健施策の充実が求められています。

・土地利用上の課題では、男女とも日常生活のための店舗・サービス施設の充実を求めています。

若年層が考える市の課題　⇒　**『通勤・通学の利便性向上』、『買物環境・医療福祉環境の充実』**

◆定住意識について

・「住み続けたい」と考える方の割合が、高年層に比べると低いです。

・「市外に移りたい」と考える方の割合は、２０～３０歳代が特に高いです。

・市外に移りたい主な理由としては、買い物が不便であるからと考える方が多いようです。

・他にも４０歳代の理由では、通勤・通学に不便であるからと考える方の割合が高くなっています。

定住意識　⇒　**若い方ほど定住意識が低く、その主な理由は『買い物の不便さ』**

■高年層（５０歳代以上）の意見の特徴

◆和光市のイメージ・魅力について

・和光市のイメージとして、若年層と同様に東京郊外の住宅都市と考える方が多いですが、若年層に比べて緑豊かな都市であると回答する方の割合が高くなっています。

・和光市の魅力としては、高年齢の方ほど 水と緑に恵まれていると感じている方が多いです。

高年層が抱く市のイメージ・魅力　⇒　**『東京近郊でありながら水と緑が豊富な都市』**

◆和光市の将来像や課題について

・将来の和光市は、高齢者・障害者・子供等が安心して暮らせる安全な都市にしてほしいと考える方の割合が特に高く、他にも、静かな住環境、緑豊かなまちづくりを求める意見が多いです。

・力を入れるべき分野として、医療・保健施策の充実、高齢者対策の充実が求められています。

・土地利用上の課題では、男女とも日常生活のための店舗・サービス施設の充実を求めています。

・男性は農地の無秩序な宅地化防止、女性は開発による豊かな自然環境の喪失防止を求めています。

高年層が考える市の課題　⇒　**『安全・安心な都市づくり』、『高齢者に優しい自然豊かな住宅環境づくり』**

◆定住意識について

・若年層に比べて「住み続けたい」と考える方の割合が高く、「市外に移りたい」と考える方の割合は低くなっています。

・市外に移りたい主な理由としては若年層同様、買い物が不便であるからと考える方が多いです。

・５０歳代では、通勤・通学に不便で、医療施設が少ないからという意見が多いです。

・６０歳代では、余暇を過ごす場所が少ないからという意見も多くなっています。

定住意識　⇒　**定住意向は高いものの、『買い物の不便さ、余暇を過ごす場所』等に不満あり**